

## 【優秀賞】

# 世界へ広がった柯达イ・メソッド

笥 花菜子

岐阜大学応用生物科学部 1 年

### 要旨

本レポートはハンガリーで生まれた、音楽の教育法である柯达イ・メソッドに注目し、これに関して、文献だけではなく、自分自身の体験と併せて、様々な視点から説明したものである。また、調べていく中で「なぜ柯达イ・メソッドが世界中に広がったのか」ということに疑問に思い、文献をさらに探していく中で、ハンガリーが戦争に翻弄されたこと、その時代に柯达イが生きていたことに注目し、戦争後のハンガリーらしさというアイデンティティを失ったハンガリーにおいて現地の民謡を取集していた柯达イが働きかけを行ったことが、世界中へと広がっていくきっかけになったことを考察することができた。

キーワード：柯达イ・メソッド，音楽教育法，柯达イ・ゾルターン，ハンガリー，音楽

## 1. はじめに

私の家族は俗にいう音痴が多い。「音痴」が遺伝するのかどうかは不確かであるが、「音痴」だと自覚している人は、音楽が得意な人よりも歌を歌うことが少ないため、そのような環境で育った子どもは「音痴」になりそうである。「音痴」により、音楽が嫌いになってしまうかもしれない。だが、私は音楽が大好きだ。合唱のハーモニーがきれいにそろったとき、うっとりする。ピアノが奏でる音も好きである。聞いていると引き込まれる。何より、皆で歌うことは楽しい。私は音楽が好きであるから今でもピアノのレッスンと合唱は続けている。「音痴」だから歌が嫌いと思うのはもったいない。合唱をしているからと言って、カラオケでいい点数が取れているわけでもない。むしろ「音痴」のくくりに入るかもしれない。私は合唱歴 10 年目をもうすぐ迎える。最近では自分の「音痴」についてこう考えるようになった。ソロを歌うときは頼るべき音がないことから不安定になるが、合唱中は他のメンバーの声という頼れるものがあるからきれいな音程と声を出すことができると。つまり、合唱中は常に自分と同じパートの人や違うパートの人の声を聞き取ることができ

ており、ずれそうになったら無意識のうちに合わせようとしているのだ。この歌い方が合唱の正しい歌い方とは限らないが、合唱ならではの対処法であると考え。「音痴」の人が合唱のハーモニーを感じられるようになるためには良い耳を持っていること、つまり、音をよく聞くことができればよい。そのためには一定の期間、質の高い音楽を聞く必要があると考える。私はまさにこの必要事項を幼い頃から通っていた音楽教室の中で実践してきた。この音楽教室で採用している教育方法は、日本では珍しいものであった。それは、コダーイ・メソッドである。このレポートでは、私が触れてきたコダーイ・メソッドについて、様々な目線から掘り下げていきたい。

## 2. コダーイ・メソッドとは

### (1) コダーイ・メソッド

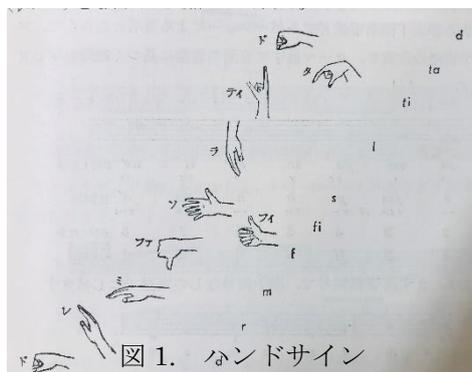
コダーイ・メソッドとはハンガリーで 1940 年から 1950 年代にかけて、ハンガリーの作曲家であるコダーイの同僚や教え子たちによって開発された音楽の教育方法である。名称がコダーイ・メソッドであり、コダーイが発明した教育方法と誤解されることが多いが、コダーイによって発明されたものではなく、コダーイの示唆と指導の下で発展した教育方法である。メソッドの目標や理念、原理はコダーイが考えたものである。特徴は、コダーイ・メソッド独特の練習はなく、トニック・ソルファ法、リズム・シラブル、ソルフェージュ、ハンドサイン等、別々の音楽の教育法が「コダーイ・メソッド」という統一的なアプローチ、理念のもとでまとめられていることだ。トニック・ソルファ法はイタリアからイギリスへ伝わった練習法であり、リズム・シラブルはフランスで発展し、ソルフェージュは主にスイスの音楽家ジャック＝ダルクローズにより発明され、ハンドサインはイギリスで発明されたものであった。やはり、コダーイ・メソッドを一言で表すと、コダーイの理念の下に集められた教育方法の集合であると言える。

### (2) コダーイ・メソッドにおける様々な練習方法

コダーイ・メソッドには様々な練習方法が含まれている。そこで、中心となる練習方法を取り上げ、どのようなものなのかについて説明していく。

1 つ目に、ハンドサインについて述べる。ハンドサインはイギリスの作曲家であるジョン・カウエンにより、1870 年に開発されたものであり、コダーイ・メソッドで用いられているものは、コダーイが改良したものである。後ほど説明するソルファ法とともに使用し、図 1 のように、手で音を表す方法である。通常、音の高さを表すときには自分の頭頂部から腰までの範囲内でしか腕は上下させない。座って行うことができるため、授業の中で、とり入れやすいものとなっている。使用例としては教師がハンドサインで示した音を生徒が歌で返す、楽譜に書かれている音を歌いながら使用する等である。また、上級のクラスになると、自分の声とハンドサインとで、カノンを行うこともある。様々な練習場面で使

用される練習法である。



出典：シャンドル・フリジェシ（編）・羽仁協子（編訳）

『ハンガリーの音楽教育』音楽之友社、1968年 p.37.

2 つ目に、トニック・ソルファ法について述べていく。ここでは、分かりやすくするために、トニック・ソルファ法について述べている場合はイタリア音名である「ドレミファソラシド」を使用し、トニック・ソルファ法以外の記述では「ハニホヘトイロハ」という日本の音名を使用する。トニック・ソルファ法は、シラブル（音節）のシステムのことであり、ドレミファソラシドの音階の中で、ドがすべての長調の主音（中心となる音）になり、ラがすべての短調の主音となるという考え方である。例えば図 2 のようなト長調では通常の日本の学校ではソラシドレミファ（#）ソと教えることになるが、トニック・ソルファ法による主音はソ（ト音）になるため、ト音をドとし、ドレミファソラシドと考える。このように考えることで、音階の構造が分かりやすくなるのだ。音階の音は均一に音を区切っているわけではなく、ピアノでいう黒鍵に値する、半音も含まれている。実は白鍵の中にも半音は隠れており、その半音となるのがミとファ、シとドの関係である。そのため、ピアノの鍵盤には黒鍵が存在しない部分ができるのだ。この半音は特に歌を歌うときにストレスなく発声しなければならない。実際、私が合唱で歌って来て、アカペラで正しい音を出すことは非常に難しいことであり、半音は特に緊張する場面である。また、調号（#やbなど）が含まれている、ハ長調、イ短調以外の調だと、半音になる部分がホとへ（固定ド法のみとファ）、ロとハ（シとド）の関係が半音にならない場合も出てくる。（ホが#により半音上がるのでホとへの間が広がり半音ではなくなる等）。この場合、歌いながら常に半音がどこであるか把握しなければならない。だが、ここでトニック・ソルファ法を使用すると、主音であるト音をドとみなすことで、半音であるミとファにあたる場所を明確に知ることができる。結果的に音をソルファ法で読み替えた方が音楽を理解することが容易になるのだ。なお、シはティという場合もある。この考えは、半音を聞き分けることができるような音楽的な耳を育てることにってこいの練習方法である。



図 2. 移動ド法（ト長調）と固定ド法の比較

出典：L.チョクシー・R.エイブラムソン・A.ガレスピー・D.ウッズ・板野和彦（訳）

『音楽教育メソッドの比較 コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C.M』全音楽譜出版社、1994年 p.116.

3 つ目に、リズム・シラブルについて述べる。リズム・シラブルとは、フランスの音楽家ジャック・シュヴェにより発明されたもので、リズムの音符名ではなくその音符の長さ分声に出すことである。例えば、ハンガリーでは4分音符はタ、8分音符はティティ、4分休符はスンである。このリズム唱をしながら手拍子をするより効果的になる。リズム・シラブルはそれぞれの国に合わせたものが、コダーイ・メソッドでは推奨されている。なぜなら、同じような音を出そうとすると言語により声が出しやすい、出しにくいがあるからだ。これを習うのは子供であるから、子どもが発音しやすいような音にすることが妥当である。例えば、私が通っていた音楽教室では、4分音符、8分音符は同じだが、4分休符をトンと発音していた。リズム・シラブルを習得すると歌を歌うときに、音名や歌詞を載せてしまえば、正確なリズムで歌が歌えるようになるのだ。

以上の3点以外にもソルフェージュも練習法の中に含まれているが、ソルフェージュは(3)にて述べることにする。

### (3) ソルフェージュとは

コダーイ・メソッドには上に述べたもの以外にもう一つ重要な練習方法が含まれている。ソルフェージュである。ソルフェージュを特定の練習方法というとは正しくはない。なぜなら、ソルフェージュとは楽譜の「読み書き」も含めた、音楽教育における、楽器の演奏以外のすべての練習のことであるからだ。このなかで様々なことをすることになる。コダーイ・メソッドにおける「読み書き」とは、頭の中で聴こえ、さらに歌うことができるようになる状態のことである。加えて歌えたことを書けるようになることも重要である。読み書きができるようになってからアナリーゼ（楽曲分析）の方へ進むことになる。このようにソルフェージュは様々な要素が含まれており、コダーイ・メソッドのみならず専門教育や学校教育を含めた様々な音楽を学ぶ場で採用されている。とはいえ、コダーイ・メソッド

ドにおけるソルフェージュの方法と一般的な音楽を学ぶ場では、内容は違ってくる。ここでは、コダーイ・メソッドが重視されているハンガリーで行われているソルフェージュと一般的に音楽の専門教育を学ぶ人を対象とした日本でのソルフェージュの仕方について比較する。

まず、日本でのソルフェージュについて述べる。日本ではソルフェージュを行うのは音楽の専門教育を学ぶ学校に進学するための受験科目対策の場合が多い。そのため、ソルフェージュは専門教育の受験に関わる、新曲視唱や聴音書き取り等の、音楽コースの専門科目であるとよく理解される。新曲視唱とは、初めて見る楽譜から音などを読み取り、すぐに歌を歌うことであり、聴音書き取りは、鳴らされたメロディーを五線譜に書き取ることである。また、多くはトニック・ソルファ法のようにドの音を移動させる、移動ド法ではなく、「ドは調号がついていてもドである」という固定ド法が使われることが多い。

一方、ハンガリーではソルフェージュは幼稚園の一般教育として行われるほど重要視されている。幼稚園では 100 程度のわらべ歌を扱い、遊びの中で音の高低、長短、音楽の早い遅いなどを学ぶ。小学校になると幼稚園での体験をもとに、ハンガリーの伝統的な音楽によく登場するソミ、ソラソミという流れを学び、順番に階名を増やしながら音符の読み書きを行っていく。このようにして、一般的な教育の中で音楽の構造を聴き取りメロディーの感覚など、音楽のアナリーゼの基本を学ぶ。幼い頃は五線譜を用いずに、リズム符やリズム唱、ハンドサイン、手の五線などが用いられる。また移動ドで音楽になれることから始まり、その後音名唱が用いられるようになる。日本では専門教育を見据えた科目としてソルフェージュが利用されているが、ハンガリーでは学校音楽教育の一環として子供たちに身近なところから用いられているのである。

#### 〈補足 用語解説〉

階名と音名...階名とは、主音を設定し、主音からみて音の高い低いによって名前をつけるもの。日本ではイタリアの音名が使われる。つまり、主音からの相対的な音の高さを表しているものである。一方で音名とは、音につけられた固有の名前であり、国ごとに異なる呼び方をされる。つまり、絶対的な音の高さを表すものである。

(誰でもわかる！音楽理論 〈<http://studay.info/onkai/>〉)

リズム譜...リズムだけを表す簡易譜。

リズム唱...各音符の呼び名に従って唱える（歌う）こと。

(日本コダーイ協会 リズム譜・リズム唱

〈 <http://kodaly.jp/concept/rhythm/>〉)

#### (4) コダーイの理念

コダーイ・メソッドにおける、コダーイの理念はどのようなものなのか。降矢美彌子

（2014）「ハンガリーのソルフェージュ指導の実際－ウグリン・ガーボルとソルフェージュ・コンクール」には4点あげられている。それは、①音楽は万人のもの②音楽教育において歌唱を重視する③音楽教育は自国のわらべうたや民謡から始める④一般学校音楽教育においてソルフェージュ教育を重視する、である。この4つの理念から分かることは、コダーイが目指していた音楽のコンセプトは音楽を専門に学ぶ人だけでなく、一般の人にも音楽の機会を与えることではないだろうか。また、ソルフェージュ教育を推すことで、人々が音楽を理解することを重要視しているように感じる。

### （5）コダーイ・アプローチの基礎

上記の理念に合わせ、コダーイはコダーイ・アプローチ（コダーイ・メソッドの前段階に当たるもの）における基礎となる考えについても述べている。①言語における読み書きのできる人はすべて、音楽における読み書きもできる。②歌うことは音楽家としての資質の基礎作りにとって、最高の手段である。③音楽教育が最も効率的に行われるためには、非常に幼いうちに始められなければならない。④子供たちの母国語の民謡は、音楽的〈母国語〉を構成する。こういう理由で、初期の指導で用いられる表現形式として採用されるべきである。⑤民謡であれ作曲されたものであれ、最高の芸術的価値を持つ音楽のみが、教育の中で使用されるべきである。⑥音楽が教科課程の中心及び核心的問題となり、教育の基盤として使用されるべきである。以上の6点である。それぞれに対して簡単に解釈を述べる。①について、音楽は一部の専門家のみが行うことができるのではなく、一般の人でも学ぶことができる、と言っているのだと考える。②について、歌は楽器も技術もいらない。楽器を習う前に歌を歌うことで基礎を身に付けることで、効率良く音楽を学ぶことができる考えたのではないだろうか。③について、コダーイは実際に2才以下を対象とした実験でこれを証明している<sup>1</sup>。④について、「音楽的母国語」という言葉が出てくる。この言葉について解釈してみた。音楽的母国語とは、自国の音楽によって気づくことのできる、その国に伝わる、言語・民俗のことではないだろうか。自国の民謡を教材として扱うことで、言語はもちろん、文化も肌感じて成長することができる。つまり、民謡は民族的意識を高めるのにちょうど良いものなのである。この民族的意識はコダーイが目指していたことでもある。⑤について、教材は良い質のものに越したことはない。音楽を楽しんでもらうために、一流の音楽を望んだと考える。⑥について、私の主観ではあるが音楽ができる人はとても頭がきれいな印象がある。音楽を幼いころから行えば賢い子になるかもしれない。おそらくコダーイは一般教育として音楽を広げたかったため、音楽に触れると賢くなる傾向があるという事実かつ理由が欲しかったのであろう。

## 3. ハンガリーとコダーイ・ゾルターン

ハンガリーは小さな国であることから、様々な戦争に巻き込まれた。コダーイもまさに

この時代を生きた人間である。コダーイが 2 度の戦争を経験したハンガリーでコダーイ・メソッドを作ろうとした経緯，について述べていく。

もともとハンガリーは 18 世紀後半から 20 世紀中期までの期間は，政治的にも文化的にもドイツの「植民地」であったようだ。ドイツは第 2 次世界大戦で敗戦するまでは強い力を持っていた。小国であるハンガリーがドイツ精神に染まっていくのは当然のことであったと考える。そのような状況下で，ハンガリーの音楽家であり，民俗音楽研究者であったコダーイは，ドイツ式の音楽教育になっていたハンガリーの音楽教育を改善するために，「ハンガリー音楽文化の発展」を音楽教育の目標にし，行動を起こしたようである。そのためにも，ハンガリーの音楽教育の基盤となるような，ハンガリーの国民意識，民族精神，個人のアイデンティティを強化して，新しい音楽文化を作ろうとした。ここで利用したのが，コダーイが 1906 年頃から採集し始めたハンガリー民謡である。このような経緯で，コダーイ・メソッドが登場し，ハンガリーに広がっていったと考える。コダーイはハンガリーの国民音楽と音楽教育の体系を確立したことを評価され，1946～1949 年にはハンガリー科学アカデミー総裁を務めた。ハンガリー科学アカデミーとは現在も存在する，ハンガリーにおける最高の権威をもつ学会のことである（Wikipedia より）。

#### 4. 世界中に広がったコダーイ・メソッド

コダーイ・メソッドについて様々なことについて調べ，参考文献を読んでいるうちにコダーイ・メソッドが思った以上に世界中に広まっているように私は感じた。実際に，「音楽教育メソッドの比較 コダーイ，ダルクローズ，オルフ，C.M」(L.チョコクシー・R.エイブラムソン・A.ガレスピー・D.ウッズ・板野和彦（訳）全音楽譜出版社，1994 年 p.111) には，「コダーイの原理に基づくトレーニングのクラスは，日本，ニュージーランド，オーストラリア，アフリカ，ほとんどすべてのヨーロッパの国々，そして北・南アメリカに存在する。」という文章があった。コダーイ・ゾルターンは偉大な作曲家とはいえ，この名前になじみのない日本人は多いだろう。なぜ，コダーイ・メソッドは世界中に広がることのできたのであろうか。

##### (1) コダーイ・メソッドはいつ頃広がったのか

まず，日本や様々な国でいつごろからコダーイ・メソッドという教育方法が注目されるようになったかについて，追跡してみた。方法としては，インターネットを使用し，コダーイについて書かれた日本語の文献の中で，一番古いものを探した。他国については，コダーイやハンガリーの教育について書かれてある日本の論文を探し，各論文の参考文献の欄から国が特定できる資料を探していった。この方法によって得られた結果についてまず述べていく。まず，日本からである。日本の本は日本コダーイ協会のウェブページ (<http://kodaly.jp/literature/>) より探した。刊行された本の中で一番古いものは，「ハンガ

リーの音楽教育」(シャドル・フリジェシ(編)・羽仁協子(編訳)音楽之友社, 1968年)であった。また, 国立国会図書館オンライン (<https://ndlonline.ndl.go.jp/#/>) にて, 一番古い文献は何かについて調べてみた。その結果柯达イについて書かれた資料で最も古いものは「ゾルタン・柯达イ」(北沢方邦『音楽芸術』1953年10月号, pp.181-184)という雑誌の記事であった。出版年である1953年は戦後間もないが, この頃には日本に紹介されていたのである。一方, 他の国ではどうだったのか。結果としては, 探し出すことができなかった。しかし, イギリスに関しては, 日本の論文の参考文献から, 1966年に書かれた資料の名前を発見した。ただ, 日本では1953年には伝わっていたのであるから, ハンガリーに近いヨーロッパ諸国にはもっと早い時期に伝わっていたのではないだろうか。

このように様々なことについて調べていく中で, いつ広がったのかという情報が日本柯达イ協会のウェブページ (<http://kodaly.jp/concept/>) に記載されていた。

国際的な音楽教育の組織である ISME(国際音楽教育学会)の世界大会が1964年にブダペストで開催され, コダイ・コンセプトによる音楽教育の信じられないほどの成果に驚きと関心が集まりました。それ以来, コダイの音楽教育は全世界のためのお手本となりました。.....現在では, コダイの音楽教育は5つの大陸において実践されています。

このことは「ハンガリーの音楽教育」(シャドル・フリジェシ(編)・羽仁協子(編訳)音楽之友社, 1968年)でも述べられている。ただしこちらの書籍では1965年になっている。また, この ISME により, イギリスの出版社とハンガリーの出版社は協同の形で「ハンガリーの音楽教育」を出版したとも編集者の言葉に述べられてあった。ここでは「ドイツ語, ロシア語にも翻訳されつつあり」と述べられており, どうやら, 1965年頃にイギリスから世界中へ広がったようである。近隣の国であるドイツよりも日本のほうが先に出版されていることに驚きを感じる。

日本柯达イ協会のウェブページに記載されていることで特に注目したいのが「信じられないほどの成果に驚きと感動を」の部分である。「信じられない成果」とは具体的に何のことであろうか。この言葉を解釈することで, なぜ柯达イ・メソッドが世界中に広がったのかが分かるのではないかと考えた。

## (2) コダイ・メソッドはなぜ世界中に広まったのか

コダイ・メソッドの特徴としては自国の民謡を使用した音楽教育を挙げることができる。第3章で述べたように, 戦争により, 「ハンガリーの音楽」というアイデンティティを失いかけたハンガリーにおいて, 自国の民謡はやはり「音楽的母国語」の役割をはたす事ができたのであろう。戦争が終わり, ある程度混乱が収まったころに, 民族的なつながりを求めるのは当然のことである。これを幼いころから一般教育として音楽の中で教えると

いうことは、国民の民族意識の付け方を模索していた、他国から見れば新鮮だったのではないだろうか。

その他にも様々なことが考えられる。ここでは 5 点あげる。1 つ目に、コダーイ・メソッドは最初の教材は自国の民謡を扱うため、どの国にも教材が存在する点である。このため、教材が準備しやすく、みな等しく音楽を学ぶことができる。2 つ目に、最初はお遊び歌を扱い、遊びながら歌うので、音楽を楽しみながら学ぶことができる点である。このため、音楽を愛する人が増え、次の世代へ伝えられる。3 つ目に、一番初めには楽器や書き取りではなく、音を聞くこと、歌うことから始めるため、楽器を準備する必要がない点である。たとえお金がなく楽器をもつことができなくても音楽を学ぶことができる。4 つ目に、小国であるとはいえ、一国家であるハンガリーの教育課程にコダーイ・メソッドが盛り込まれたことで、注目されたという点である。最後に、コダーイ・メソッドでは学ぶリズムや音の順番は自国の民謡でよく出てくるリズム、音からとされており、それぞれの国で柔軟に対応することのできる教育方法である。そのため、より効果的に学習ができるはずだ。これらの点をコダーイ・メソッドが世界中に広がった要因だと考えた。

## 5. 結論

コダーイは第 1 次世界大戦以前からハンガリーの民謡を採集していたが、第 1 次世界大戦、第 2 次世界大戦をはさみハンガリー人がドイツを含めた周りの西洋的な精神に大きな影響を受け続けていることを感じたのではないだろうか。ハンガリーの民謡を研究していたコダーイは自国の民謡の良さを感じ、ハンガリーの人をハンガリー人にするためには、ハンガリーの芸術に触れさせることが一番効果のある方法だと考えた。そのために、普段音楽に触れない人も含め一般大衆に音楽を広める必要があった。純粋に民謡のすばらしさを伝えたかった面もあるかもしれない。民謡をその音楽教育の中心に据えることで、ハンガリーらしさを西洋的な精神に影響を受けていた人々に気づかせたかったのではないだろうか。コダーイは幼児教育から行う体系的な音楽教育の大切さを提唱した。この考えを支持した周りの人々が、コダーイの唱えた理念、原理を補強するために、様々な音楽の練習方法を追加していき、ハンガリーの音楽教育としてコダーイ・メソッドが国内に広まった。そのような時代の流れの中で音楽教育の学会がハンガリーで開かれ、コダーイ・メソッドが世界に向けて発表された。ハンガリー人らしさを見出したハンガリーの人々を見た各国の研究者からコダーイ・メソッドが注目、評価された。その上、様々な国で柔軟に作り直せる音楽教育体系であったことから、多くの研究者から各国の教育機関に提唱され、採用された。このようにしてコダーイ・メソッドが世界中に広まったと考える。

私は幼いころからコダーイ・メソッドに触れてきたが、今回様々な視点から調べてみて、自分が関わっていることでも知らないことが多くあることを知った。また、興味深い文献も発見し、新しい発見もありそうなので、コダーイ・メソッドについてさらに調べていき

たい。

【注】

- 1) L.チョクシー・R.エイブラムソン・A.ガレスピー・D.ウッズ・板野和彦（訳）『音楽教育メソッドの比較 コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C.M』全音楽譜出版社、1994年 p.113より。

【参考文献】

- 伊藤直美「ハンガリーの学校と教師」、『音楽教育実践ジャーナル vol.5 no.2』2008年3月, pp.86-91.
- 降矢美彌子（2014）「ハンガリーのソルフェージュ指導の実際—ウグリン・ガーボルとソルフェージュ・コンクール—」岩田愛子・粕谷雪子・竜田晴美・目黒稚子, 『音楽教育学第44-2』, pp.65-69.
- L.チョクシー・R.エイブラムソン・A.ガレスピー・D.ウッズ・板野和彦（訳）『音楽教育メソッドの比較 コダーイ、ダルクローズ、オルフ、C.M』全音楽譜出版社, 1994年。
- シャンドル・フリジェシ（編）・羽仁協子（編訳）『ハンガリーの音楽教育』音楽之友社, 1968年。
- 小川昌文・尾身敦子・阿波祐子・井下べに・永岡都・Alison M.Reynolds（2015）「世界の音楽科学学習指導要領を比較する（1）—アメリカ・ハンガリー・フィンランド・ドイツでは音楽教育をどう考えているのか」, 『音楽教育学第45-2』, pp.54-58.
- 尾身敦子・小川昌文・高橋美智子・永岡都・坂井康子・権藤敦子（2013）「幼児教育・初等教育における子どもと音楽の関係を問い直す—コダーイの音楽哲学を手がかりに—」, 『音楽教育学第43-2』, pp.75-80.
- Pajor Marta（講演者）（2009）「ハンガリーの音楽教育—コダーイ・コンセプト—」Szirmai Monika（翻訳）・三村真弓（企画）, 『音楽教育学第39-2』, pp.32-36.
- Pajor Marta（講師）（2009）「コダーイ・コンセプトに基づいた音楽指導」Szirmai Monika（翻訳）・三村真弓（企画）, 『音楽教育学第39-2』, pp.37-38.

【参考 URL】

- 「Wikipedia ハンガリー科学アカデミー」, 〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/ハンガリー科学アカデミー>〉,（参照 2019-2-7）。
- 「誰でもわかる！音楽理論」, 〈<http://studay.info/onkai/>〉（参照 2019-2-7）。
- 「日本コダーイ協会 リズム譜・リズム唱」, 〈<http://kodaly.jp/concept/rhythm/>〉（参照 2019-2-7）。

「日本コダーイ協会 文献・作品一覧」, <<http://kodaly.jp/literature/>> (参照 2019-1-29)。

「NDLONLINE 国立国会図書館オンライン」, <<https://ndlonline.ndl.go.jp/#/>> (参照 2019-2-7)。

「日本コダーイ協会 コンセプト」, <<http://kodaly.jp/concept/>> (参照 2019-2-7)。